『豊かに与える者の喜び』コリント人への手紙第二 9章6～15節 2016.7.10(聖日礼拝説教より)

『…豊かに蒔く者は、豊かに刈り取ります。ひとりひとり、いやいやながらでなく、強いられてでもなく、心で決めたとおりにしなさい。神は喜んで与える人を愛してくださいます。』 Ⅱコリント 9:6～7

◆主イエスが「受けるより与えるほうが幸いである」(使徒 20:35)と言われたように聖書は、徹頭徹尾「与える祝福」を説く。実際、与えるに色々な理由がある。「義務感」「自己満足」「特権意識」など…しかし願わくば、愛に迫られ与えずにおれなかった！でありたい。これぞ神の与え方！神には私たち罪人を赦す義務はなく、また『有り難く思え』と恩着せがましく自分の寛大さを誇る必要もない！神はただ、私たちを愛する故に独り子イエスを犠牲にされた。罪に苦しんだ末滅んでいく哀れな私たちをほっとけなかった。

◆義援金、奉仕、献金…何にせよ、与える姿勢は、6節にある『少しだけ蒔く者は、少しだけ刈り取り、豊かに蒔く者は、豊かに刈り取ります』。「少し(フェイドメノース)」とは「惜しみながら」の意。「豊かに(ユーロギア)」とは「祝福、讃美しながら」の意。誰かに与える(捧げる)のは、相手の祝福や幸せを願ってのこと！しかし人が誰かを祝福したり、幸せにしたりできるのか？愛も祝福も幸いも、全て神から出ている！つまり、何かを与えるとは、「どうかこの捧げもので～を祝福してください」と願い祈ることなのである！この神を知り、その愛を受けていればこそ、惜しむことなく豊かに与え、豊かに刈り取る(感謝・喜びが溢れる)者となれる！

◆『蒔けば収穫する』のは当然の自然法則。与えれば、必ず受けるのである！しかも神は、『蒔く人に種と食べるパンを備えてくださる方は、あなたがたにも蒔く種を備え、それをふやし…(10 節)』てくださる。神は『蒔く者』である私たちに、自分が食べる分と蒔く分の両方を与えられる。聖書によれば「蒔く分」は受けた分の十分の一。マラキ書で神は、「あなたがたは、蒔く分まで全部食べて(盗んで)しまっているので乏しくなり、祝福も幸いも失っている(3:10)」と警告！さらに、「蒔く分をきちんと捧げ、天の窓が開かれ、どんなに祝福されるかためしてみよ！わたしはあなたを守り、豊かにし、すべての民があなたがたを幸せ者と言うようになる」と約束された！

◆聖書が、そこまで「与える」ことについて書き立てるのは、何をどれ位与えたかでなく、あなたがどれほど神の愛と結びついているかどうかを問うている。1割を捧げても、それが何百倍もの祝福となって、自分も相手も豊かに祝福される。これぞ今年の御言葉(Ⅱコリント 4:15)の成就なのである。

★蒔く分を食べずに捧げた時に与えられる、豊かな収穫を試してみよう！